

第15回国際冬期道路会議（グダンスク大会）

XVth International Winter Road Congress

西村 巧¹ 若井亮太²

By Takumi NISHIMURA and Ryohta WAKAI

1 はじめに

世界道路協会（WRA:World Road Association, 通称PIARC:Permanent International Association of Road Congress）は、4年に1度、国際冬期道路会議を開催している。同会議では、世界道路協会に加盟する各国の、冬期道路に関連した研究や実務等に携わる研究者・技術者が一同に会し、最新の冬期道路に関する研究開発や政策評価などの発表、意見交換が行われている。

本稿では、2018年2月20日から23日まで、ポーランド共和国グダンスク市のAmber Expo Convention Centerで開催された第15回国際冬期道路会議の概要を紹介する。

2 第15回国際冬期道路会議の概要

本会議は、『安全で持続可能な冬期の道路サービス』（Providing a Safe and Sustainable Winer Road Service）をテーマとして、42カ国から約千人、うち日本からは百名以上が参加した。本会議では、基調講演、大臣セッション、8トピックのテクニカルセッション、2コースのテクニカルビジット等が開催された。

3 大臣セッション

開会当日、テクニカルセッションに先立ち行われた大臣セッションでは、欧州投資銀行のPasquale STAFFINE氏がモデレーターとなり、チェコのDan Ťok交通大臣、日本の森昌文国土交通省技監、リトアニアのRokas Masiulis交通・コミュニケーション大臣、モンテネグロのOsman Nurković 交通・海事大臣、ポーランドのインフラ大臣、スロバキアの交通建設大臣らが参加し、「道路利用者への安全で効率的な冬

期サービスの提供」「持続可能な発展と気候変動の中での冬期道路管理の提供」をテーマに、各国の取り組みに関する講演や意見交換が行われた。

日本からは、国土交通省の森技監が登壇し、日本の積雪寒冷地域における気象特性、近年突発的に発生している豪雪の状況、それらに対する冬期道路対策の状況、ETC2.0、SNSなどを用いた道路利用者への情報提供の取り組み、除雪車の走行位置制御技術などについて紹介を行った。

その他、カナダ・ケベック州、ラトビア、イギリス等の道路管理者の代表より、道路利用者とのコミュニケーション等について意見交換が行われた。



写真-1 大臣セッションの様子

4 テクニカルセッション

テクニカルセッションでは、異常気象対策、冬期道路の利用特性と安全対策、維持管理、除雪機器・設備、冬期サービスなど冬期道路にかかわる8つのトピックに分かれて、「口頭発表（ポスターセッション含む）」と「ポスターセッションのみ」の発表が行われた。発表論文数は合計168編で、うち日本からの論文数は37編であった。

トピック1では、「極限の状況や災害」をテーマとし

¹交通・社会経済部門 部門長兼グループマネジャー ²都市地域・環境部門 グループマネジャー

て、雪崩災害、通行止め関連対策に関する発表が行われた。この中で、国土技術政策総合研究所からは、大雪災害時の道路交通対策として、大雪時に早期の通行止めをすることで効率的に除雪作業を行い、早期に道路状況を回復させる管理手法に関する経済効果とその評価手法に関する論文の発表があった。この論文は、平成28年度に当研究所が受託した業務の内容を国土技術政策総合研究所が取りまとめたもので、今回の大会の中で優れた論文に与えられるPIARC Best Paper賞の1つにも選ばれた。

表-1 テクニカルセッションのテーマと発表論文数

テーマ数	発表論文数
1) 極限の状況や災害	9
2) 気候変動と環境	9
3) 道路気象情報	25
4) 道路利用者と道路の安全	16
5) 冬期維持管理と計画の策定	45
6) 機械・設備と製品	46
7) 都市部における冬期サービス	12
8) トンネルと橋梁	6
合計	168

5 展示

展示ブースでは下記に示す18ヶ国から50の政府・企業・団体等の展示が行われた。各国の概要、道路の整備状況、冬期道路の状況、対策などの展示の他に、除雪機械、気象観測機器などの展示もみられた。

表-2 展示ブースでの出展状況

種別	団体数
PIARC	1
国単位の展示 (National Pavilion) (各国道路協会、PIARC 国内委員会を含む)	12 (チェコ、フランス、 日本(国土交通省、日本 道路協会)、韓国、 北欧道路協会、イタリ アPIARC他)
次回開催都市	2 (2019年アブダビ大会、 2022年カルガリー冬季大会)
その他企業等	35

日本の展示ブースは、会場の入口付近に設置され、国土交通省などの官民合わせて15団体の展示が行われた。展示内容は、日本の冬期の気象や交通状況の概略、冬期道路対策の概略、省力化除雪機械・自動運転除雪車の開発・除雪機械の多機能化など防雪・凍雪害防止に関する最新技術の概要、除雪や道路状況の把握・他機関連携・道路利用者への情報提供などが展示され、道路会社における凍結防止剤の構造物への影響軽減対策など、多岐にわたるものであった。



写真-2 日本の展示ブースの様子

6 おわりに

本会議では、日本をはじめとする数多くの国から多くの技術者、研究者が参加し、各国・地域における冬期道路に関する取り組みが発表され、テーマ毎に活発な議論・情報交換が行われた。

冬期道路管理は、気象条件、地形、交通状況、地域性など地域の状況により対策や考え方が異なる。近年、我が国をはじめとして世界各地で、異常降雪による災害が発生し、新たな対策が求められている。本会議は、冬期道路の取り組みに関する議論・情報交換の場として、今後一層重要性を増していくものと期待される。

参考文献

- 第15回国際冬期道路会議(グダンスク大会)
WEBサイト
<http://aipcrgdansk2018.org/>